



グランド再生可能エネルギー2014国際会議 宣言文

会場 東京ビッグサイト、2014年7月27日－8月1日

再生可能エネルギーの広範な技術の進展に寄与し、持続性あるエネルギーシステムを促進させるために、世界48カ国から1350名以上の専門家がグランド再生可能エネルギー2014国際会議に参集した。若手科学者や研究者も約3割含まれている。日本の東京ビッグサイトで行われたこの会議では多様な論文発表や討議がなされ、それらをもとに、以下に示す基本的な理解と提案を世界に向けて私たちの指針として示すことで合意した。

●シリーズで開催しているこの国際会議(2006年は幕張メッセ、2010年はパシフィコ横浜、いずれも日本)の当初から、私たちは世界的に再生可能エネルギーが継続的に拡大していることを感じとってきた。再生可能エネルギーへの期待は更に増し、その重要性への認識はいまや広く一般の人々の間で共有されている。

●IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の作業は、地球規模の気候変動と人間活動に起因する温室効果ガス排出との関係を再度確認し、気候変動による深刻な影響を明らかにした。IPCCは、再生可能エネルギーは温室効果ガスの排出を大きく減らし、気候変動のを最小限にする有力な解決策の一つであると認識している。

●世界中で再生可能エネルギー市場は拡大しつつあり、再生可能エネルギーの設備導入は加速している。最新のREN21報告書によれば、2013年末における水力を除く再生可能な電力の発電設備容量は世界全体で約560GW、しかし発電電力量で言えば世界の全発電電力量の約5.8%に過ぎない(2012年のデータ)。このように地球規模でエネルギー供給を見れば再生可能エネルギーは未だ比較的小さな割合しか占めていない。今世紀中ごろ迄に全エネルギー供給のかなりの割合を占めるようにするにはその普及を大いに急ぐ必要がある。

●先進的かつ革新的な技術に焦点をあてた更なる研究開発は、再生可能エネルギーの普及を加速し、一層のコスト低減と再生可能エネルギーシステムの効率向上を図るために欠かせない。個々の再生可能エネルギー技術のみならず、省エネルギー、エネルギー貯蔵との統合技術、並びに統合されたエネルギーシステムのマネジメントが、より一層の低炭素化社会を目指す上で欠くことができないものとなっている。

●再生可能エネルギーの潜在的可能性をフルに達成するためには、再生可能エネルギー部門は有能、かつ多様な人材を必要とし、新しい雇用機会を提供する。このことは、技術現場と大学の双方で新しい教育とトレーニングプログラムを必要とし、それは、再生可能エネルギー部門に移ることが予定される既存部門の人材に対して意義ある継続的な教育とトレーニングの場を提供することにもなる。

●再生可能エネルギーを支えるために様々な政策が各国政府によって実施されているが、更なる努力がなされなければならない。強力で革新的で信頼できる政策の枠組みは、再生可能エネルギーの導入を力強く進めていくために絶対に必要である。これらの政策はエネルギー供給の保証を確かにするだけでなく、財政リスクを減らし、コストを最小化し、経済成長を達成するような安定した投資環境を創り出すことにも寄与するであろう。

再生可能エネルギー技術やそれに関連する政策の専門家である私たちは、技術や政策への課題を受け止め、持続可能な社会づくりを目指して引き続き再生可能エネルギー市場の成長に貢献していこうと思う。日本で開催するグランド再生可能エネルギー2018国際会議は、これらの作業を評価し、今後4年間の成果を共有する機会を提供する場になるであろう。